'91 10月号 No. 468

京交山岳部報

今月のテーマ ≪秋の高原≫

〔第１８５１回例会〕★★

岩登りコース シ シ 岩

縦走コース シャカ岳往復

日　時　10月５日(土)～６日(日)

集　合　壬生交通局前　５日ＰＭ１：00

担　当　大倉寛治郎（検車区☎２－３３８２）

吉田　　武（梅津　☎６５４）

宿泊地　比良山岳センター

備　考　姫路岳友同人会と交流を行います。

参加者は担当まで連絡して下さい。

〔第１８５３回例会〕★

故大木秀実君一周忌追悼登山

仰木峠から大尾山

日　時　10月26日(土)

集　合　壬生交通局前　ＡＭ８：00

出町柳駅前　　ＡＭ８：30

コース　野村別れ…仰木峠…大尾山〔童髪山〕

（Ⅱ△681.4）…大原

担　当　井戸澄夫（☎７５６）

備　考　マイカーで行きます。早めに連絡して

下さい。

〔第１８５２回例会〕★★

小野村割岳

日　時　10月10日(祝)

集　合　壬生交通局前　ＡＭ７：30

担　当　津田　実（☎４６１－１６８９）

コース　壬生－広河原下之町…早稲谷川…小野

村割岳…往路下山

備　考　マイカーで行きます。参加者は担当ま

で連絡して下さい。

〔第１８５４回例会〕★

府県境シリーズ

西（ナイ）　山（ヤマ）

日　時　11月３日(日)

出　発　壬生交通局前　ＡＭ８：00

コース　京都－須知－高畑

担　当　岡田茂久（☎８１１）

備　考　地図2.5万分の１　村雲

マイカー山行です。参加者は事前に担

当まで連絡して下さい。

今月の集会

日　時　10月９日（水）　ＰＭ６：00

場　所　厚生会館４Ｆ大教室

企画運営委員会

日　時　10月21日（月）ＰＭ６：30

場　所　厚生会館４Ｆ大教室

富士山国際シンポジウム

岡田茂久

「富士山国際シンポジウム」が先月の13日，静岡県富士市で開催された。富士山は日本列島の中心部に位置し，その美しい姿，雄大さ，気高さは古来から日本人の心を魅了してきたものである。

それだけでなく，世界の国で日本の山と言えば「フジヤマ」であり，その植物の垂直分布は世界的にも有名な自然の宝庫であり，貴重な人類の財産を残す世界の富士山ともいえる。

しかし，その富士山の自然環境破壊がとりざたされてからもう幾久しい。富士山を破壊する元凶は，まず火山であるがゆえの地形と，地質に由来する自然の大崩壊，富士山測候所の足元から始まる大沢崩れである。毎年20万立方米の土砂が流出し，放置するといつかローソクの蝋があふれるように，旧噴火口までざっくりとえぐり取られてしまうという。そんな無残な富士山の姿だけは見たくないもので，今，富士山が抱える最大の課題である。

自然現象に加え，人間の手による自然破壊も進んでいる，地球的な規模で進む乱開発の波も富士山だけを例外とはしない。古くから，富士山の広大な裾野は，人間との関わりが大きかった。古代には麓にうっそうと繁っていた広葉樹林帯は，早くも鎌倉時代には狩り場，あるいは牧場の採草地に変わり，近世にいたって今も使用されている演習場までも作られるようになる。まだ隣のトトロも棲んでいられたであろう残る広葉樹林帯も，昭和30年頃には完全に伐採され，替わって画一的な針葉樹が植栽されることにより，富士山古来の植生は大きく変わってしまった。それに加え決定的な自然環境破壊は，富士スバルラインに代表される自動車道路の開通で，おまけに急増する観光客や，登山者によって環境汚染が発生する。スバルライン沿いのゴミの山，山小屋のゴミやトイレの汚さは目をおおうばかりで，富士の湧水に大腸菌がウヨウヨとなってはまさに世紀末である。

日本のシンボルがこれではと，富士山を初め，緑の地球環境を守るために「富士山から世界へ，世界から富士山へ」のテーマを掲げ，世界の著名な植物学者，生態学者を集めて始まったのが「富士山国際シンポジウム」である。今年で第３回を数えるシンポジウムは，第１回でまず自然破壊の現状調査と保護策を考え，第２回で保護から緑の回復，創造を具体的に検討。今年の第３回では，高山地帯の植生の復元，里山の保護，崩壊防止等の具体的な手法等が話合われた。ひょっとして十数年後には，全山が緑に被われた奇妙な富士山になってしまうかも知れないが，眺めても良く登っても良い，素晴らしい山に早くなってほしいものである。

それにしても昨今，雲仙の普賢岳，フィリッピンのピナトゥボ火山などの噴火の惨状が，生々しく伝えられている。富士山もまた火山であることを忘れないことだ。富士山はピナトゥボ火山や，普賢岳を含め，多くの日本の火山とともに環太平洋火山帯を形成しており，死火山では無く休火山である。地球の長い歴史からすると，火山活動をちょっと休んでいるだけである。富士山については「五百年活動，五百年休止」という説がある。江戸時代の宝永年間に噴火して以来，今は休止期で次の活動期までまだ２００年もあり，当分は心配はないということであるが，普賢岳も，ピナトゥボ火山もまさかと思う山であったのだが噴火した。富士山も万一の噴火による環境破壊は自然の節理で致し方ないとしても，それまでに人間による環境破壊だけは防ぎたいものだ。

【第１８３９回例会】

国境シリーズ（若丹国境）　**横　　谷**　　Ⅲ△５７３.０ｍ

津　田　　実

国境シリーズも尻すぼみ状態なので此處らで一発やらんと「マジョリティー」が怖いと再開？することになった。

壬生厚生会館前に集合した精鋭４名，老荷物一個をともない丹波は尼公谷へと車を駆る。「霧海乃国」も今日は明るく，ご機嫌で上林川を遡上する。〃お飲物を買い忘れたのを除けば〃「アホが魔のヤブが手ぐすね引いて待ち構えているのも知らずに」。

尼公谷と迫沼谷の合流地点近くのお地蔵様の前に車を止めて尼公谷を遡行する。此の道は，若狭の尼が信仰の為に通った道とかで，昔日の面影歴然。古街道を飄々と歩いて峠にでた途端に無粋な林道が出現，夢もロマンも泡と消滅する。

待てよ，伝聞によれば此の峠に地蔵さんが祀つられているはずと付近を捜すと，小道の左側の熊笹の中にござった。若狭と丹波を結ぶ塩ノ道を通る旅人の哀歓を一途に見守って来られたお地蔵さんに叩頭百万遍，合掌再拝，フト後ろを見ると日本海が望見できた。

林道を右へ国境稜線に添って進み一寸のヤブで三角点は見つかった。万歳三唱。

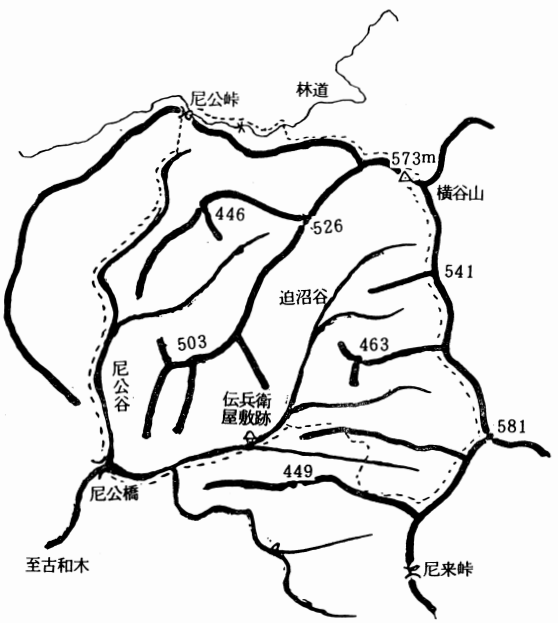
〃山神様のお供物はなし〃

此處で真っすぐに下山すれば好いものを，酔狂者のこと尼来峠を回って帰ろうと思ったのが運のつき。

細い尾根を降りかけてコラアカン迫沼谷やとバックしたのが始まりで，山声雪語氏が「不細工な登山」と喝破された如く，何回もヤブのなかをウロウロ，キョロキョロした挙句の果て，気が付いたら谷底に落ちていた。又もや，コラアカンと山腹を匍い登りやっと小道にでたら何んと迫沼谷だった。

過ぎ去りし日に拝見した傳兵衛さんの屋敷は見る影も無く崩れて倒壊寸前の有様だった。以前通ったときはいまにも人が住めるようだったのに。

今日の山行きは余りにも無念無念と，車を駆って林道を登り尼来峠の取付点を確認して帰った。山中彷徨もまた一興あるものだ。



平成３年６月29日　晴れ

参加者　岡田，奥村，坂井，津田，（大丸山岳部－河野）

コースタイム　京都（ 7 ：30）－尼公谷出合（ 9 ：30－ 9 ：50）－尼公峠（ 11 ：00－11 ：15）－横谷頂上（ 12 ：20－13 ：10）－△５８１（ 14 ：50）－傳兵衛屋敷（ 16 ：30）－尼公谷出合（ 16 ：50）

【第１８４１回例会】

夏山合宿

白　峰　三　山

松田　誠二，馬渕　拓己，西尾　直樹，
大塚　孝之，山岡　昭弘

今年も昨年に引き続いて夏山合宿を企画しました。今年は，若い人だけでのんびりと行こうと，５月初めより準備を始めました。

どの方面にしようかと迷いましたが，大倉さんのアドバイスもあり，日本第二位の高峰を含む「白峰三山」方面と決定しました。コースは，雪渓，お花畑が楽しめ，足場が良く，同じ道は２回通らないようにと，

広河原～大樺沢～右俣コース～小太郎尾根～白峰三山縦走～大門沢下降点～大門沢～八丁坂新道～第一発電所（奈良田）

と決定しました。（山中２泊）　ただ，京都から広河原までのアプローチが長く，前日の夕方に京都を出発し，その日の深夜に甲府まで行き，そこで仮眠をとることにしました。（実際には，甲府よりタクシーで広河原まで行き，そこで仮眠をしました。）

では，いざ出発　……。

８月２日　広河原～北岳肩ノ小屋

甲府駅から１時間15分ほどタクシーを乗り，０時20分広河原に到着しました。そしてここの野外休息所で仮眠をとることにしました。雲の切れ間より星・月が見え，明日の天気は大丈夫だと確信し，近くの沢から聞こえる音を横に眠りにつきました。時間が経つにつれてだんだんと冷え込んできて，マットだけでは寒くて結局シュラフやカッパなどを着ることになりました。

４時30分起床。まだ薄暗く，ヘッドランプを使いながら荷物を整え，５時15分バス乗り場で水をとり，登山届けを提出しました。天気は曇りで北岳山頂付近はガスがかかっており，残念ながら眺めはよくありませんでした。

５時23分吊り橋を渡り，それから２回目の小休止のとき朝食を軽くとりました。登山道はよく整っており，初心者の私達でも歩きやすく，大勢の登山者が行動を共にしていました。中には女性も多く，大塚氏はその後ろ姿を追いながら足取りもかるく登っていました。

左手に雪渓を見ながら北岳のバレットを望み，８時23分に二俣分岐に到着しましたが，残念なことに大樺沢上方にわずかに雪渓が残っているだけで，雪渓の上を歩くことができず，また，かき氷も食べることができませんでした。ここからほとんどの登山者は大樺沢に向かいましたが，私達は右俣コースを進みました。急な登りが続き小休止の間隔も短くなり，皆の疲れもピークに達し，３

回目の小休止のときにテラス状の広場で昼食（ラーメン）をとることにしました。

67分間の休憩のあと11時52分に広場を出発，白根御池分岐５ｍほど上手にお花畑が，八本歯のコルから吊り尾根がきれいに見えました。

13時00分に小太郎尾根に乗り，ハイマツ帯や白い小さな花の群落を見ながら14時02分に北岳肩の小屋に到着しましたが，予定よりも２時間も遅れているのでここでテントを設営することにしました。もうすでにたくさんのテントが設営されており，８人用の大きなテントを設営する場所はほとんど残っていなくて石がごろごろ転がっている少し傾斜した場所にテントを張りました。そして，まず，この小屋で水を３リットル補給し，夕食（野菜炒め）の用意をしました。夕食のあと，これからの日程を考えると不安になってきてなかなか眠れませんでした。

昨年の白馬登山よりも日程が短く，荷物が少なくなるはずなのに，反対に多くなり，しかも十分なトレーニングもできなかったなど多くの反省点が残りましたが，無事に縦走することができ，これからの山行きにおおいに参考になりました。

松田誠二

８月３日　肩の小屋から農鳥小屋

朝４時40分起床。疲れた身体を持ち上げテントから首を出すと雲海の遥か彼方に富士山が見える。素晴らしく秀麗な山容に思わず，素直に感動してしまう。そして，そのままの姿勢で４時52分に御来仰。

６時５分，北岳肩ノ小屋を出発。稜線に出，後ろを振り返るとガスの切れ目からうっすらとした甲斐駒ケ岳と仙丈ケ岳の姿を見る。

６時42分，北岳山頂に到着。日本で富士山頂に次いで２番目に高いトコロ。３,１９２.４Ｍ。記念写真を撮り，朝食のフランスパン，コーヒー，チーズを腹に入れる。

７時20分，山頂を後ろにする。ガスの立ちこめる中，ガレた細いアップダウンの激しい道を足場を確かめながら歩く。気温は10度。風が冷たい。

松田さんがトップを歩き，リーダーの山岡さんは，一番後ろから私たちみんなの調子を見てくれている。

８時25分北岳山荘に到着。ここで水を買い，50分に出発。ここから農鳥小屋までは，一本道。みんなそれぞれ自分のペースで，海抜３,０００メートルの登山道を楽しむ。

９時23分，中白根山（３,０５５Ｍ）10時30分，間ノ岳（３,１８９.３Ｍ）。

11時40分に農鳥小屋に到着。急ぎテントを設営し，場所を確保。翌日に予想される強行軍に備え，十分疲れをとることとする。

農鳥小屋では，有料の北岳山荘と違い，水場があった。「水場５分」と札が立ててあるので，「ラッキー」とばかりに水を汲みに向かったのだが，これがエライ遠かった。片道20分はある。「ヒドイぞ！農鳥小屋。」だけど，この途中，またも美しい富士山や雷鳥の親子を見られたことは，私にとって，今回の夏山の大変良い思い出となったのである。

馬淵拓已

8月4日　農鳥小屋～第一発電所（奈良田）

2時30分に起床し，満天の星空のなかをテント場で一番最初に出発する。昨日までは曇天とガスとで眺望に恵まれなかったが，星空が良い予感を与えてくれる。小屋からはすぐに急登である。左手は大きくえぐりとられたような崖であり，ジグザグの道を風にあおられながら登る。40分ほどで西農鳥岳である。四囲の山並みはシルエットとして浮び上っているが，日の出前の風は体より急速に熱を奪い去るので長い休息はとらなかった。

この先，農鳥岳までは稜線を伊那側に少し巻きながらのガレ場のアップ・ダウンである。岩を乗り越える場面が何度かあり，暗がりにルートを見失いそうになることもあった。東の空が赤く染まるのを見やりながら先を急ぐ。40分程で農鳥岳への緩やかな登りとなる。いつの間にかヘッドランプも不要となり，頂上にたつ。振り返えれば北岳より間ノ岳，西農鳥と歩いた山並みが見渡せる。北岳，間ノ岳は初めてその全容をうかがうことができた。東南方向は一面沸き立つ雲海であり，かなたに富士が小さく浮かんでいる。西方には恵那山や中央アルプスの山並みが望まれ，北アルプスもはるかにうかがわれた。この2日間の不運な天気は，これで報われた感があった。最高の眺望であり，見飽きることがない。5時に日の出となり，三角点を囲んで万才三唱をし，しばし感激にひたる。

私儀ながら，今回の山行が一部予定変更となったのには，私の体調不良が大きな要因であった。初日にバテたのはトレーニングの不足のたたりであろうが，2日目より痛み始めた右膝には対処のしようがなかった。登りではさして苦にならぬものの，下りでは痛みの為に普通の歩行さえ困難となった。農鳥岳より先は比較的緩やかな下りが大門沢下降点まで続いているのだが，この行程で膝が痛み始め，先行暗たんたるものがあった。それにもかかわらず，快晴の空の青さと，ハイマツの緑，稜線を過ぎる風は，辺りをさわやかで穏やかな空気でつつんでくれた。下降点を示す慰霊塔の下で雲海に浮ぶ富士を見ながら朝食をとる。

「きつい」と聞いていた大門沢の下りは，急速に高度を下げていくものの，ジグザグに道がきってあり予想より歩き易かった。ここは，ハイマツ帯から，針葉樹林帯，広葉樹林帯へと垂直的植生分布を短時間で観察しうる絶好の場であるが，悲しいかな，勉強不足で深くは観察できなかった。途中，私の荷物を分散してもらったりしたが，膝の状況はよくならず，右足に負荷をかけないようにと不自然な歩き方となったためペースも大巾に落ちた。私が追いつくまで何度となく待ってもらった。滝かと思わせた水音は，山頂に登りゆく龍の如き太い一筋の渓流であり，霧を発生させていた。その先は沢添いの広葉樹林の心地よい道となり，大門沢小屋まで1時間ほどであった。

小屋で小休止をとり，2時間近くかけて奈良田発電所の取水口についた。この付近には4つの吊橋があり，かなりの高度差をもっているのでスリリングである。最後に，「ムジナ坂」という登りを越えると林道に出，10分ほどで発電所のバス乗り場についた。

大門沢下降点から発電所まで都合7時間余りという記録は，ひとえに私の不調によるのでその点をご理解頂きたい。振り返ってみると今回の山行は多くの教訓を与えてくれた。歩きながら「パーティ」を組むということはどういうことかを考えさせられたりもした。仲間に助けられた山行であり，最後に深くお礼申し上げたい。

西尾直樹

感　想　　大塚　孝之

1日目

長い登りを終えほっとした。夕方テント場にてブロッケン現象が見られた。人の影が雲に写し出され，虹もでており感動的な現象であった。

2日目

ガスがでて眺望がきかなかったため北岳頂上においての眺めが見えなかったのが残念であった。

3日目

天候も回復し星空の中歩きはじめ農鳥岳頂上にて日の出，北岳，雲の上に頭を出した富士山等がはっきり見え，すばらしい景色であった。

以上，今年も3,０００m級の山に登れてよかったと思う。

夏山合宿を終えて

今年の夏山合宿は，「連れていってもらう山行」から「自分たちで行く山行」にしようと，５月の初めにメンバーが集まって第一回のミーティングを行い，それから数回ミーティングを重ね，準備を行いました。

コース決定，食料計画決定，装備計画決定，しおり作成，諸手続依頼と無事に準備は進みました。

当日，心配していた台風も遠ざかり，期待と不安を胸にいだいて京都を出発し，甲府へと向かいました。

甲府駅では，すでに数人の登山者がコンコースなどで仮眠中でした。これらを横目に私たち５人は駅前広場へと急ぎました。深夜に駅前広場をうろつく登山者５人組に目をつけたタクシー運転手の，「広河原まで５人で乗れば，値段はバスとあまりかわらないよ。１万２千円ぐらいかな」との言葉にのせられて，タクシーで広河原まで一直線。午前０時20分に広河原へ到着し，そこで仮眠することとなりました。

翌朝，午前５時に広河原を元気に出発したものの，荷物が重く，大樺沢途中で，みんな少しバテ気味で，１日目は北岳肩ノ小屋泊まりとしなくてはなりませんでしたが，これが幸いしました。なぜなら，２日目は農鳥小屋泊まりとしたため，空模様のたいへん怪しくなってきた昼過ぎにはテントの設営を終え，雨に濡れずに済んだからです。

３日目は，西尾さんが膝を少し痛めて，大門沢を無事降りられるかなと心配しましたが，みんなの協力により，無事に予定の時間までに下山することができました。

この３日目，なかなか予定通りには進みませんでしたが，みんなが，それぞれの担当をこなして下さったおかげで，事故も無く，無事に合宿を終えることができました。

「みんな，お疲れさま。ありがとう。」

さて，今回の合宿の反省点ですが，箇条書きにしてまとめてみます。

① 荷物重量をもっと軽くすること。

② 食料計画について，もっと乾燥食品等を活用し，メニューに変化を持たせること。

③ もっと余裕のある歩行ができるようにすること。（景色，花などを楽しみながら。）

これらの反省点を糧に，心はもう来年の夏山合宿に……。

最後になりましたが，まだ未熟な私たちのこの夏山合宿にアドバイス，援助を下さいました山岳部の皆様に感謝し，誌上ではありますが，御礼申し上げます。

山岡昭弘

（参　加　者）

山岡　昭弘，　西尾　直樹，　大塚　孝之，　松田　誠二，　馬淵　拓巳

（コースタイム）

8／1　京都駅 ―ひかり252― 名古屋駅 ―しなの20― 松本駅 ―快速みすず― 小淵沢駅
16:09発　16:57着　18:00発　20:12着　20:56発　22:05着　22:08発

―― 甲府駅 ―タクシー―
22:45着　23:05発

8／2　―― 広河原……野呂川吊り橋……大樺沢二俣……（右俣コース）
0:20着（仮眠）5:00発　5:20着　8:20着

……白根御池分岐……小太郎尾根に乗る……北岳肩ノ小屋（泊）
12:20着　13:00着　14:00着

8／3　北岳肩ノ小屋……北岳（3,192.4ｍ）……吊尾根分岐……
6:00発　6:40着　7:20発　7:40着

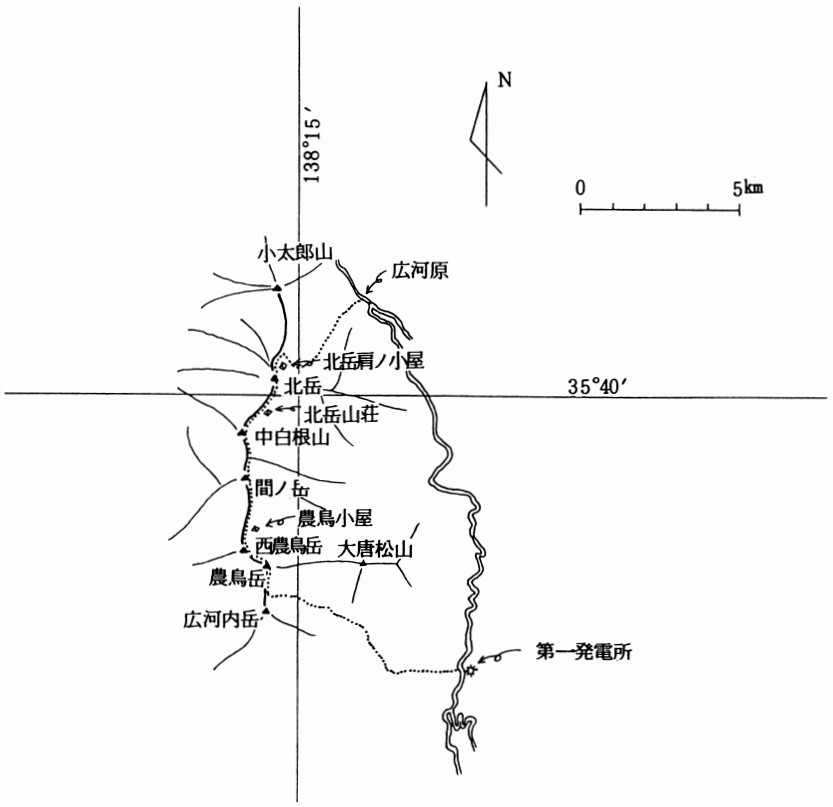
……北岳山荘……中白根山（3,055ｍ）……間ノ岳（3,189.3ｍ）
8:25着　8:40発　9:20着　10:30着　10:40発

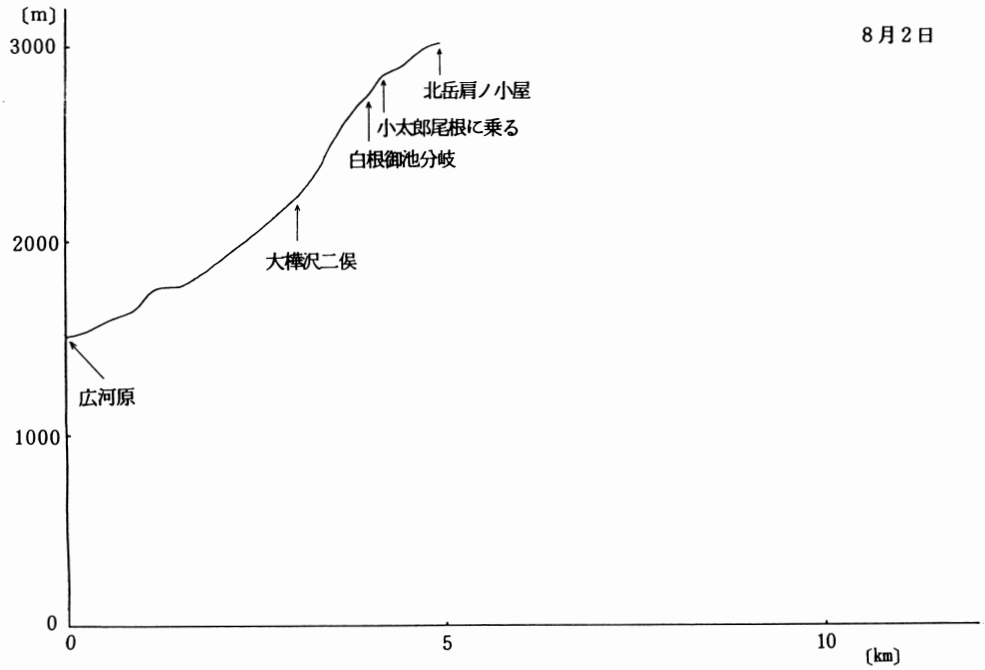
……三国平分岐……農鳥小屋（泊）
11:30着　11:40着

8／4　農鳥小屋……西農鳥岳（3,050ｍ）……農鳥岳（3,025.9ｍ）
3:15発　4:00着　4:10発　4:55着　5:25発

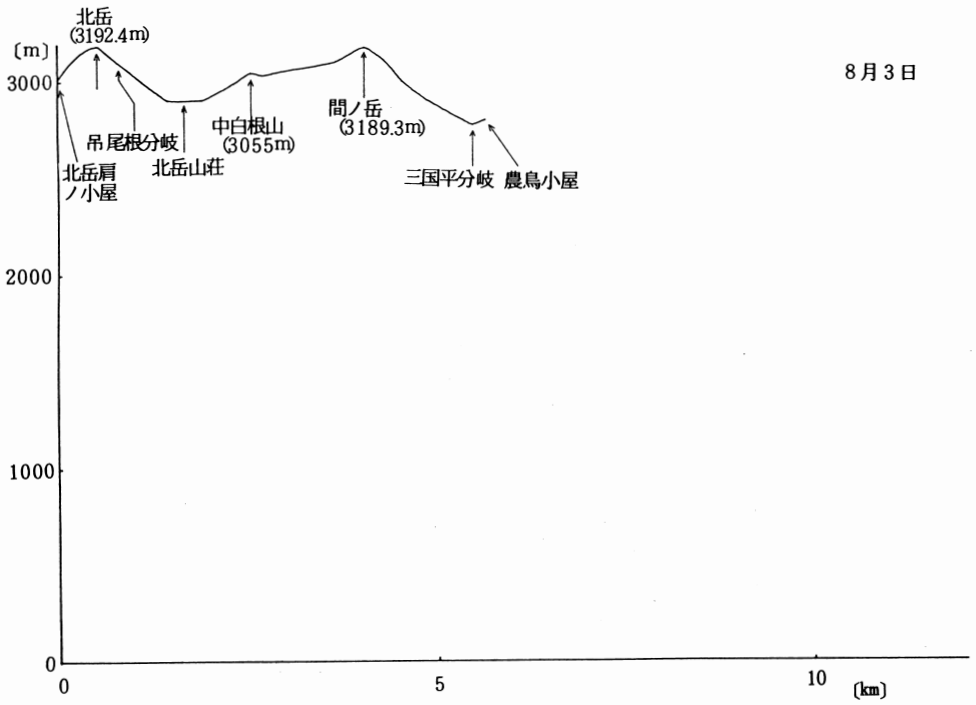
……大門沢下降点……大門沢小屋……ムジナ坂……第一発電所――
5:55着　6:20発　9:20着　9:50発　12:40着　12:55着　13:40発

―― 身延駅 ―富士川1― 静岡駅 ―こだま461― 京都駅
15:35着　15:59発　17:23着　20:26発　22:54着

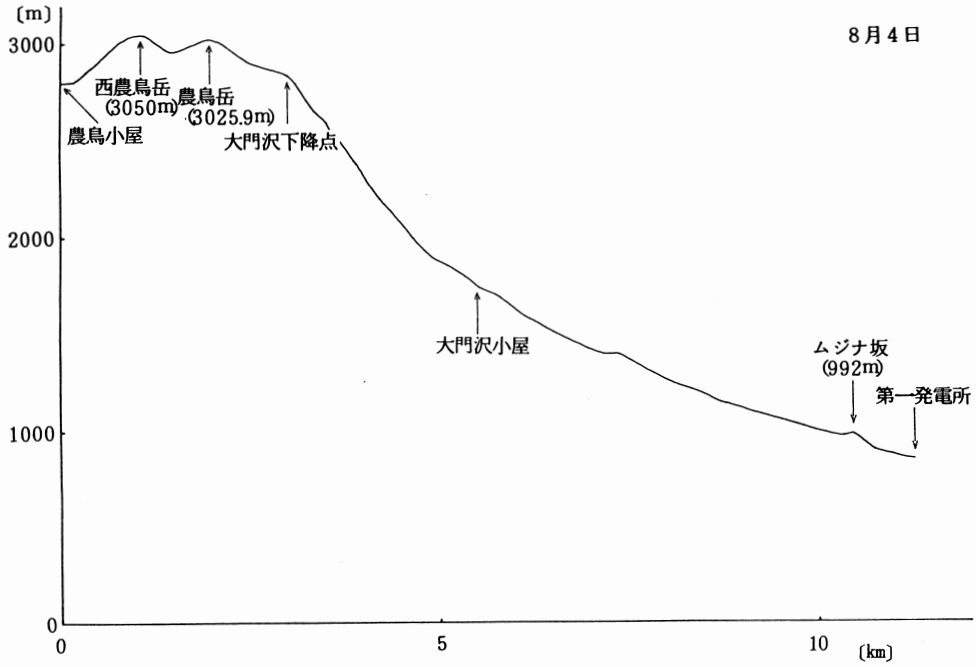

N
138°15′
0
5km
小太郎山
広河原
北岳肩ノ小屋
北岳
35°40′
北岳山荘
中白根山
間ノ岳
農鳥小屋
西農鳥岳
大唐松山
農鳥岳
広河内岳
第一発電所


〔m〕
3000
2000
1000
0
8月2日
北岳肩ノ小屋
小太郎尾根に乗る
白根御池分岐
大樺沢二俣
広河原
0
5
10
〔km〕

標　高　図　1


北岳
(3192.4m)
〔m〕
3000
2000
1000
0
8月3日
吊尾根分岐
北岳肩
ノ小屋
北岳山荘
中白根山
(3055m)
間ノ岳
(3189.3m)
三国平分岐
農鳥小屋
0
5
10
〔km〕

標　高　図　2


〔m〕
3000
2000
1000
0
8月4日
西農鳥岳
(3050m)
農鳥岳
(3025.9m)
農鳥小屋
大門沢下降点
大門沢小屋
ムジナ坂
(992m)
第一発電所
0
5
10
〔km〕

標　高　図　3

【第１８４３回例会】

京大芦生演習林　**ブナノ木峠**　△９３９.１ｍ

鷲見　壽末子

７月13日（晴のち小雨）

朝マイカーにて目的地（京大芦生演習林）へ向け出発，国道１６２号線を北上，周山・安掛を経由して京都国体を機に整備された道路を田歌・佐々里橋出合を過ぎ須後に着く。駐車場で地下足袋をつけ沢登りの身支度をして早々に出発する。演習林事務所入口にて入山の仮申込み（備え付け用紙があり記入）を済ませ，演習林事務所前からトロッコ軌道の橋を渡らず直ぐに山道に取り付く。事務所より少し行くと民家が一軒あり，その裏を由良川源流に沿って進むこと15分程で小野子谷との出合いに出る。左の小野子谷にルートをとり，谷の左岸の踏跡を時々谷を徒渉しながら遡行する。30分程で東谷と西谷の分岐に出る。ルートを西谷にとり遡行する。

谷は以外と明るく水のせせらぎと小鳥のさえずりで人気のない原生林の奥から古代の息吹が聞こえてくるような錯覚を感じさせてくれる。上へ行くにつれ谷の幅もだんだん狭くなって，険しく左右の山が競って来るところがあり高巻をして進む。谷は少し広くなり右に細く長い滝に出合う。谷を右に左にと遡行して登りつめ少し左に振り尾根に取付く。植林の杉とブッシュの尾根筋を急登すること30分，思ったほど苦労せず林道に出る。「ホッと一息」ここまでは予定どおりのルートであったが，ブナノ木峠への取付き点が見つからず林道を行ったり来たり少しアルバイトをして，結局道標「八宙，中山線」のある取付きよりルートをとり15分程でブナノ木峠△939.1に着き「乾杯」。三角点の周囲はベンチも設置され，草木が刈りこまれ整備された台地になっている。

下りは登りの取付き点を見つけるべく別のルートをとったが結局徒労に終わり心残り……，小雨も手伝ってガスのかかった夕暮れの林道をケヤキ峠～中山～長治谷へと急ぐ。多くのテントが張られて賑やかな長治谷も本日は来客なしでひっそりとしている。小雨のため作業所の軒先をお借りしてビバークすることにする。夕食をすませて一時の団欒，突如暗闇の中から一点の光が浮かび上がりよく見ると，あちこちに点点…と小雨の中螢が乱舞し我々を歓迎してくれる。疲れを忘れて優雅な眠りにつく。

７月14日（晴）

さわやかな目覚め，夜半ずっと降っていた小雨も出発するころには晴れ上がりラッキーな始まりである。由良川の源流を中山から七瀬まで遡行して，トロッコの軌道を須後までのコースで出発する。

中山で川を徒渉して由良川源流の右岸を整備された歩道を下る。途中「鳥越谷・イタドリ谷，対岸のホウ谷・スケン谷等」の道標に沿い原生林の大木がひしめく源流の歩道を約１時間程歩くと岩谷の出合いに出る。ここで右岸から左岸へ徒渉してルートを左岸にとる。この辺り水の流れはゆるやかになったり急な流れになったり幾度となく急カーブを繰り返している。岩谷から約１時間30分程でホソ谷の出合いにでる。ここで又左岸から右岸へ徒渉してルートを右岸にとる。（この辺り徒渉する箇所が若干わかりにくいが，水量の少ない渡りやすいところを見分ける）道は比較的歩きや

すい高巻道や鎖場（７～８箇所）等もあって変化がある。若干アルバイトした所もあったが無事にクリアして七瀬谷の出合いに着き「昼食」。

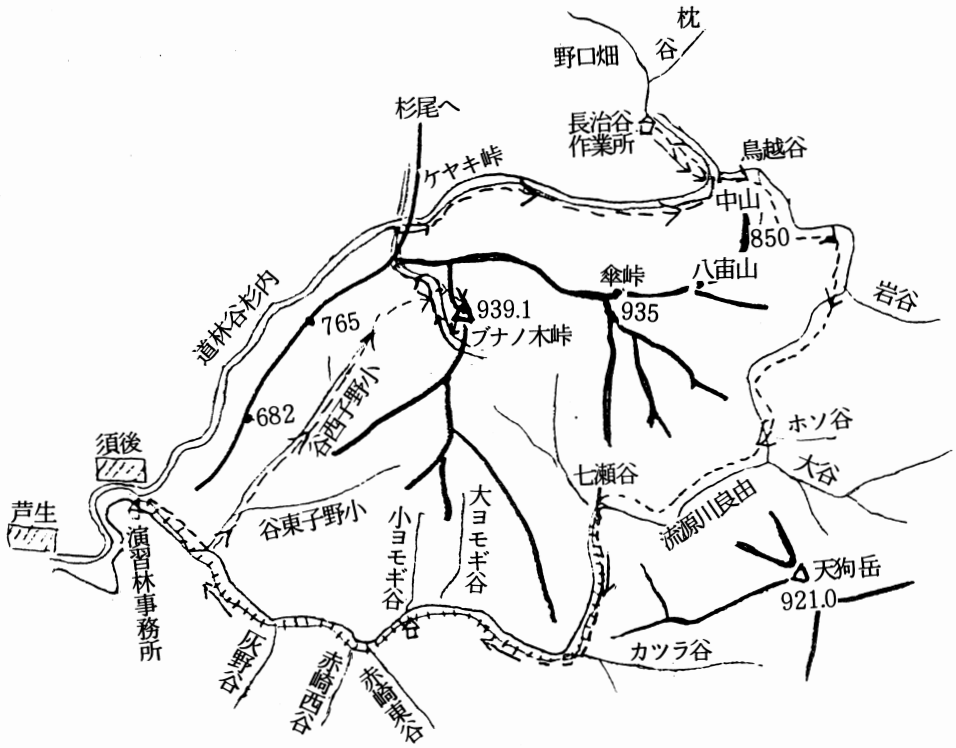
昼食後，七瀬谷よりトロッコ軌道の道を地下足袋の底に小石の痛みを感じながら須後の駐車場へと急ぐ。着替えをすませて，２日間の原生林との出会いに満足し充実した気分に浸りながら帰路に就く。

コースタイム

7／13　京都８：30－須後10：10…京大演習林事務所10：30…由良川源流との分岐10：45…東谷分岐11：14…林道15：05…八宙中山線入口16：00…16：15ブナノ木峠16：30…ケヤキ峠17：15…長治谷18：05（ビバーク）

7／14　６：25出発…中山６：35…岩谷７：43…９：05ホソ谷９：40…大谷分岐10：38…12：16七瀬谷（昼食）13：10…カツラ谷13：40…小ヨモギ作業所14：16…灰野谷14：37…須後15：00

〔参加者〕　鷲見敏一，　鷲見寿末子



【第１８４５回例会】

比良貫井谷遡行

田村　正弘

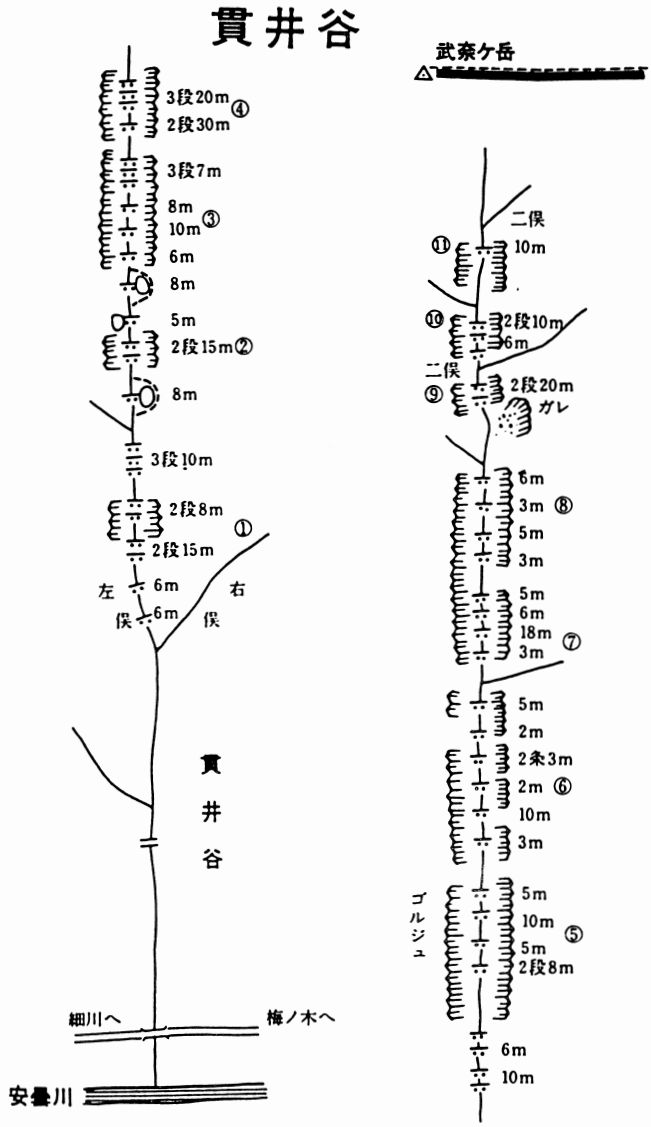
山行から１週間も経つと，あのガスに包まれた幻想的とも言える美しい谷の記憶さえも薄れてきている。比良にこんなにすごい谷があると思ってもみなかった。どうせヘク谷ぐらいだとタカをくくって参加したのだ。

一つ滝を越えると…また目の前に（小さいのを入れると50以上もあるのだと言う。）…もうビックリの連続でありました。信州や東北の沢のスケールや明るさはないにしても，やはりここは関西でも指折りの沢なのです。

でも，この谷，素晴らしさと裏腹に「悪谷」と言われるだけに転落者が多く，かなりの技術が要求され，谷は両側から深く立ち，巻道がない滝がほとんどで途中で怪我をしても進む以外に道はなさそうである。

朝７時過ぎに貫井町で前夜からテント泊りしていた日本山岳会ほかの人達と合流して身支度を整え８時過から歩き始める。水の量が極端に少なく涸沢かなと思わせる位だった。40～50分歩いた所で全員ハーネスを付けフル装備となる。途端に滝の連続出場となる。水量はすごくあるのに所々で伏水となり谷から水の消えている場所に何度か出食わせたのが不思議だった。谷の入口付近も，やはりそれだったのか？

技術を要する谷だと書いたが本当にそのとおりで一見どこを登るのか見当がつかない。それにしてもリーダーは全く登れそうにないオーバーハングの滝まで軽々と登ってしまいサッとザイルを降ろしてくれる。２人連れのパーティが先行していたのだが巻道がある所はそれを利用した



跡が幾つもあった。自分で考えてもそりゃそうだろうネェ！ほとんどが直登でシャワークライミングそのもの……15～16回位ザイルを出して貰いゼルブストを付けて登ったのだが，結局登れなかったのは１つだけ……７～８mの滝だったが，手掛かり一つないナメ滝だったのである……さすがに巻道は存在していた。パキスタンから帰国したばかりの斉藤先生は60歳を越えているのに僕より余程体力があり，技術（当り前）も素晴らしいのにビックリしてしまった。沢の源流にたどり着くと，どこでも同じでやはり薮漕ぎとなる。驚いたことに薮を詰めて行くと，そこは武奈ケ岳の頂上の30m横だった。途中で昼食や何度かの大休止を取ったこともあって，頂上に到着したのが15時20分。僕にとっては今年２回目の山行，岩場では腹の筋が違いそうになるし，最後のほうでは体を上げるのも大変な感じ，薮漕ぎではもうお疲れ……その辺の事を考えると沢山の休憩を取って貰って嬉しかった。

頂上は，時間も遅かったしガスもかかっていて寒かったせいか誰もいない。全員が乾杯と握手をして喜びを分かち合った……が寒いこともあり早々に引き揚げることにする。

復路は細川尾根を２時間がかりで降りたのだが，雨がパラついたりしたこともあってとても滑りやすかったのには困った。

こんなに素晴らしい谷へ連れて貰って本当に有難うございました。家へ帰ってホッとした……そしてビックリした……体中アザだらけだったのだ。

１９９１年８月25日

〔参 加 者〕　大槻雅弘，　三橋　勉，　田村正弘，　他ＪＡＣ６名

コースタイム

壬生６：00　－　7：00　貫井　8：00　…　貫井谷　…　15：20　武奈ケ岳　…　細川尾根　…　18：00　…　19：10　壬生

【第１８４６回例会】

飯　盛　山（若狭三山）

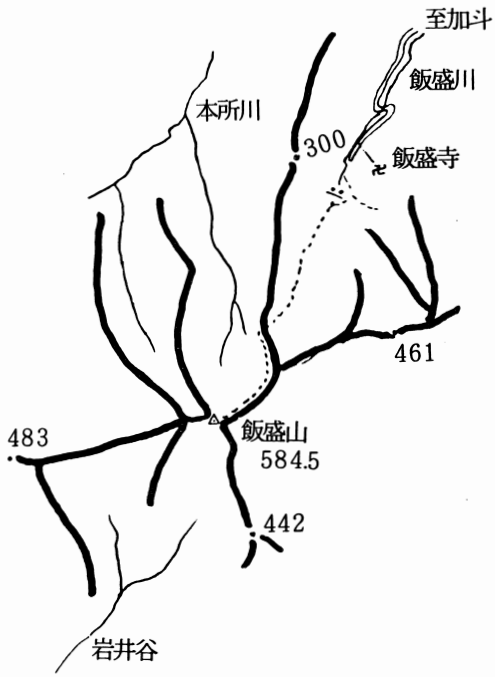
岡田　茂久

舞鶴の青葉山，小浜の多田岳とこの飯盛山を一説に若狭三山という。若狭の漁師は漁から帰るときや自分の舟の位置を確かめるのに，この三山を目印にしたと聞いている。

飯盛山という名は全国に多々見受けられる。「飯盛・いいもり，文字どおり茶わんに飯を高く盛り上げた形の山」。米食を主とする日本民族にして名付けられる山名である。山の形から概してピラミダルな姿の良い山が多い。若狭の海から眺める飯盛山も，たおやかな山々の連なりから，一際比翼を揃えて盛り上がる端正な山姿を見せている。

しかし，この若狭三山のひとつ飯盛山は，他の二山と比べ標高は低いとはいうものの，今ひとつ登山者には人気が無い。高頭式編の「日本山嶽志」にも青葉山と多田嶽の名はあるが，飯盛山の名は見当らず不遇な山である。私の登山歴にも青葉山と多田岳は早くから記されていたのに，飯盛山

だけがなぜか今まで残されてしまった。山名の読み方にしてもろくに調べもせず聞きかじりで，例会予告に「はんせいざん」などとやってしまったのは，飯盛山に対し申し訳ないことであった。



登山路は，京都から来ると飯盛山の南の名田庄村を経て，中名田の岩井谷から良い道があると聞いたが，あえて海側の飯盛川「はんせいがわ」に沿って，飯盛寺「はんじょうじ」から，飯盛山「いいもりやま」へとこだわってみた。

飯盛寺は苔むした石段も傾き，人の気配もなく蟬しぐれが降り注ぐ中，重要文化財の本堂だけが枯れ残ったという感じのたずまいであった。庫裏に声をかけたが戸締まりもなく静まりかえっている。しばらくして寺の上の方の茶畑からオーイと返事があり，キャンプ場の駐車場に駐車を指示される。１台８００円，広い駐車場にただ１台だけで，帰るまで本当に駐車料金を取られるのだろうかと疑心暗鬼だった。

道路の終端が寺の行場で立派な滝がかかっている。行場の左手の竹藪が飯盛山登山口で，朽ちかけた道標に導かれて入り込むと，すぐに路が分岐となる。突如おこった大声に蝮でも踏んだかと引き返すと，地図を読みながら歩いていたラストが早くも迷子になったようだ。登山路は分岐を右にとって，飯盛川がもう谷川になってしまったのを渡る。このルートは登る人が少ないのかほとんど踏跡に近い。20分ほど登ると右手のチャートの岩盤に，６畳敷はあろうか大きな洞が穿ってあった。かつて炭焼き用の集積場として作られたものであろうか。こんなところで一晩寝るのも良いなと，入り込んで天井を見上げたら，何より苦手のゲジゲジがウジャウジャ，先ほどの悲鳴より大きな声が出そうなのをぐっと呑み込んで，なにくわぬ顔で飛び出したが，早々に出発する。

谷沿いの路はますます心細くなって，谷筋に小さな滝を見る辺りから，巻くようにして右の尾根に登りだす。登り着いたコルは良い休憩場所だ。このあたりだけ路はしっかりしている。コルから植林の境の支尾根を辿るが，路は期待外れで植林の下生が繁り，展望はおろか，急坂のブッシュのトンネルである。ブッシュの間から時々飯盛山のピークが覗ける。ようやく登りついた主尾根でも

根曲竹の中にルートが続く，またまた悲鳴。Ｉさんの金時計が無い。先程のブッシュに取られてしまったのだ。日頃の行いが良けりゃ帰りに見つかるさ。安もんやからと自分で自分を慰めるＩさんを慰めながら根曲竹をかき分ける。展望は頂上直下の名田庄村側の伐採地に出てやっと開ける。

飯盛山頂上５８４.５ｍ，二等三角点。草付きの明るい頂上で，残念ながら西北の切り残しの雑木に邪魔されて展望は３６０度とはいかないまでも，若狭の海から，若丹国境の山々まで充分に楽しめる。９月になったとはいえ本当に名ばかり，まだまだ盛夏の午後の日差しは強い。それでも，時々吹き渡る風の息吹は涼しさを増し，はやくも顔を覗かせたススキの穂が，山の秋の到来が近いことを感じさせる。

往路を下山，寺の行場の滝は上から見ると人口の水路で導いてあった。うまくしたもので，下からは全く自然の滝に見える。それでも若狭の名滝という駒札はしょっている。

下山の時間が早く，前回はエンゼルラインとレインボーラインを間違え，四等三角点の梅丈岳に行ってしまったが，今度は間違えず久須夜ケ岳に周り，車からちょっと足を伸ばして一等三角点にタッチしてくることが出来た。

そうそう，結局，駐車料金も無料で，Ｉさんの金時計も無事見つかったことも報告しておく。

１９９１，９，１

（参 加 者）　奥村智生，　和田良一，　辻　久雄，　方山宗子，　岡田茂久，　他１名

（時間記録）　三条京阪　７：15　－　飯盛寺　９：30～10：00　…　コル　10：50～11：05

…　飯盛山　11：45～12：45　…　飯盛寺　14：10～14：30

厚生会登山『北アルプス』（９１・８・８～11）

燕岳→大天井岳→常念岳→蝶ケ岳紀行

津田　　実

中房温泉に集結した精鋭40数名は，前夜の疲れもなく，合戦小屋めざして出発する。当初から今回の山行きは厳しいとの情報が流れていたのか？。皆さんの足は軽い。

先頭の鷲見リーダーは，これ以上緩っくり歩けないと言うほどの緩足で逸る皆さんの足をブレークして歩き出した。

「鉄砲登り」といわれ，アルプスでも屈指の急登で，コンターを一本，一本踏みしめるような登りと，案内書に書かれていたが。

バスを降りてすぐに胸突き八丁は流石に厳しく，これ承知の親心か。3,０００ｍの登竜門は簡単に歩かしてはくれない。第一のベンチ，第二のベンチと適当な場所に休憩用のベンチがあり，老体には有難いことだ。

その仏ベンチも四ケ所で終わり，樹林のなかの急登に少し慣れてきた頃，突然前方が開けて合戦小屋に着いた。大勢の登山者で狭い台地は溢れんばかり。

合戦沢，合戦沢の頭，合戦小屋と凡そ登山にナジマナイ文字がでてくるのに違和感を持って登ってきたが，小屋の建物にその由来が書かれていた。

なんでも，その昔，此の付近の山地に八面大王と言う悪者がいて悪事を重ね，村人を苦しめていたので，此れを退治すべ、坂上田村麻呂との戦いが行われた。その戦いが此の付近だったとのこと。そこで合戦と言う文字が当てられた，とあった。

謂れが分かったところでお昼ご飯にする。広場を見ると中学生ぐらいの人が大勢いる。

書物によればこの付近では燕岳へ登るのが土地の習慣とか。木曽駒ケ岳の悲しい物語，新田次郎の「聖職の碑」がフト脳裏を横切る。

元気な中学生の後を追うように我々も出発する。今までの樹林帯から離れて，付近の山々を望見，登山道の近くには高山植物も見えだしたら燕山荘はすぐだった。

山荘前で一同休憩。希望者だけが燕岳 一等△2,762.9mに対面すべく稜線を進む。三角点は特異な岩稜のうえで私達を優しく迎えてくれた。

小生，齢い64才にして初めて見算する燕（ツバクロ）岳，しかとカメラに収め，山荘に戻り，皆さんが戻ってこられるまで，此れからの長旅に備え，沈思黙考身体をやすめる。

大天井岳への径はガスに覆われ展望は零，地形的には東鎌尾根から槍の一部が見える筈なのだが，切通しの岩場は適当な場所に鎖が付けられ，ホールドもスタンスも確かなもので，先にトラバースし，後続者を見守る。

ただ残念なのは岩面に嵌め込まれた山の大先達，喜作さんのレフリーを写真に収められなかったことだ。

大天井ヒュッテの鼾の交響曲も楽しく深い眠りに引き込まれる。

翌８月10日，今日も濃いガスに覆われていた。昨夜は好く寝られたのか，皆さん快調のご様子。穂高町営大天井荘まで登って休憩，三角点へ行く。一等△2,922.1m　本山行，第二の三角点にタッチ，カメラに収め，すぐに出発する。

ハイマツとガレの径を黙々と歩く，東天井岳を過ぎる付近で突然，落石があり一瞬ヒヤッとしたが尾根を西に越えると風が強くガスが去って明るくなってきた。丁度好い場所があったから休憩する。案内書に雷鳥が散見できるとあったが，本当にハイマツの間から姿をみせてくれた。疲れた身体も休まる。

常念乗越の急登を越えると常念小屋が眼下に見えてきた，然し，この下りはきつかった。常念小屋前の広場で，ヘリが荷揚げの最中その轟音も楽しく，ご飯をたべる。

それから前常念岳一等△2,661.8mへ迂回する組と常念岳●2,857mを直登する組に別れる。迂回組に大槻，鷲見さんがリーダーとして回ったから，こちらは岡田，古市両リーダーが付いてくれた。でも，体調の悪い人がでて古市さんはその介添えに取られ，岡田さん一人，自然に老体が先陣を承ることになった。

小屋の前の広場から常念岳を見ると登山径も好く，たいしたことはないと思っていたが，取付いてみると奇岩怪石累々で径は分かり難く，降りてくる登山者の落石が怖い。大変歩行に向かない難路だった。上を見たり，下の後続者を見たり大変疲れる登攀になる。それでも45分程で頂上の方位板に辿りついた。頂上は狭いから少し下で迂回組の到着を待つ。

約30分位で元気な迂回組と合流して，蝶ケ岳を目指す。常念岳頂上からその前途を見たが痩せ尾

根の径を辿りコルを二つ越して行く，その先は見えない。前途遼遠頑張ろう。

これからが正念場と出発したが老体には厳しい歩行となる。蝶の前衛の登りで何處かの大学山岳部らしいパーティが休んでいた横で我々も一本立てる。まだ幼さの残る女の子が特大のキスリングを担いでいたので「何キロですか」と聞くと「30キロ」とのこと。俺も若かりし頃，このキス担いで穂高へ登ったものだが今はいけません。僅か数キロの荷物が肩に食い込む。これもトシか。最後の苦登をすぎると蝶ケ岳三等△2,664.3 mが御苦労さんと迎えてくれた。全員で万歳三唱。記念写真を撮る。到頭やった。地元で言う前山の縦走を誰の顔も嬉しそうだ。

蝶岳新道の下りは悪路と聞いていたが然程でもなかったが，三股からバスの待機場所までのなが一い，なが一い林道歩きの疲れも大町温泉で洗い流し，和気あいあいのうちに無事，京都にかえった。

お世話くださった，厚生会の皆さん。山岳部リーダーの方々，ありがとうございました。

【個人山行】

北岳バットレス

台川　敦美

昨年のクライミング・ジャーナルにこの壁のルート案内が掲載された為か夏場の日祝日に入った人々は大混雑でコースの順番待ちが長くその日のうちに登り切れず壁の途中でビバーグを余儀なくされたパーティもあったとか……という話しを岳人クラブの山本保さんから聞かされた我がクラブの山本俊夫さんはお尻に火がついて台チャン行こう行こうで同じ職場の上田嘉夫さんと三人で行くことになる。

キリマンジャロから帰って後始末に大忙しの広沢さんへ連絡すると私もその日は連休だから同行しましょうとの返事にひと安心。

行動パターンは毎度同じで自宅へ迎えに来て頂き名神東インターより高速道へ入り交通停滞もなく順調に走り恵那ＳＥで夜食タイム，車中では広沢さんからキリマンジャロ竹馬登山の苦労話や楽しかった話等を聞き出し，アッというまに韮崎インター，芦安村の看板を見て右折，夜叉神峠のトンネルを越えて山の中腹をくねくねと走って谷の底にダムの明かりが見え出すと間もなく広河原。

橋を渡った駐車場に車を止めその横にテントを張り手足を延ばしてしばしの睡眠で寝たかなぁと思ったらすぐ起こされる夜中の２時半，身支度を整えて２時50分発。ヘッド・ランプの明かりに導かれて大樺沢の吊橋を渡り沢沿いの道を進み一汗かいて上着を脱ぎ一本立てて朝食のおにぎりをほおばる。だんだんと高度が上がってくる感じが耳に伝わり，ヘッド・ランプを消す頃には小鳥がさえずり出し深山の趣きを実感。今年は雪渓が少ないとのリーダーの声を聞きつつ白根御池小屋の分岐近くでバットレスがはっきりと見えてくるがついでにガスも出てくる。一番大きくて一番重いザックのリーダーと溢れんばかりの気力満々の上田さん，どんどん先へ行ってしまう。ウンー！道は分かっているんだ，バテないように山本さんと二人で牛歩のなんとか……。

Ｄ沢からゴーロの階段を登り途中からＣ沢へ，十字クラックを目標に急なガラ場を登って取り付

き点，ここにも雪渓が少し残っていて冷たい滴で水筒を満たしておく。

今回は私と上田さんが組み，リーダーは山本さんと組んだ上でビデオ撮りをしながら登りますので同じコースを行きましょう……で恥かしながら私がトップでピラミッド・フェースへ取付く（前回，ルート間違いをしたので再挑戦です），２P（２ピッチのこと）目のトラバースを間違えないようにビレー点へ。３Pから直上ルートとなりルート・ファインディングが難しい。三種類の案内書までそのポイントについての記事に差があり，頭を悩ませますがリーダーと一緒なので左右に別れて登り意味判明（初登ルートと考えられるコースは岩の崩壊がひどいようです）。

案内書のグレードが高くなると，リーダー！お先へどうぞどうぞーで楽々です。そして，上田さん一度リードしてみる？　でセカンドへまわり，これまた楽でした（私ばかり手抜きしてイッヒッヒーで酔真仙）。下界でいくら講釈を云々しても本番ルートでリード出来るとは……私もやれるのですねーと鼻高々の上田さん，そして我々の知らない色々な岩場を経験してる山本さんの登り……等などをリーダーは上から下からビデオ撮り（キリマンジャロへ持参した機具です）わいわいと楽しく11Pをこなして４尾根へでる。

せっかくの４尾根の上もガスが一杯で視界不良，その尾根上を４P登ってマッチ箱のピークに到着，古いビレー点の下に新しいボルトでビレー点が作られてます（ボルト打ちには時間を要します）。御苦労さんの気持ちでそれを利用して，一旦，dガリー側へ懸垂下降してボデー確保，それより３Pの最短コースで終了点へ。終わったと思ったら疲れがドッと出て来ますが，ザイルを解きギヤー類の整理をしつつの歓談にはヤッター！の実感が満ちてます。そこからクライマー専用道をジグザグに登って一般道へ，右折して少し歩くと北岳のピーク……三等三角点のポン石を踏んで記念撮影。

今回は一日だけの登攀なので小屋泊りを予定（リーダーのアドバイス），そのうえピークより遠い北岳山荘が私の希望ですが，このペースでは夕食の時間に間に合わない（我々にはあとで判ったこと）とリーダーは一人で走って小屋へ先行してなんとか晩飯を確保してくれる……。感謝感謝でまずは鑵ビールでカンパーイ（こういう時のビールは特にうまい）。８時消灯なので早々に食事を済まして窮屈な大部屋へ潜り込んでハイーオヤスミでした。

朝は４時に電灯がつき，オハヨー食事の時間ですとマイク放送（食堂は３回の入れ替えでやっと番がまわって来る），夏の山小屋の雰囲気だけは満喫して６時20分に出発－鎖やハシゴつきの巻き道（お花畑が満開の中）を通って八本歯のコルへ……，今日は腹が立つほどの上天気で，真夏の太陽がバットレスを浮かび上がらせ何組かのパーティが取り付いているのも見えます。我々の登ったコースはどの付近でしょう…と，ワイワイガヤガヤの大休止ののち，大樺沢の下方を眺めると色とりどりの登山者の大行列……。これは離合待ちが大変と慌てて出発……甲府発の初発のバスが５台もでたとか。大キスリングのパーティは一週間の入山だとか。どの山小屋がすいているだろうかと悩む家族パーティとか，色々の声を耳にしつつ広河原の駐車場へ10時過ぎに到着。

荷を車に積み広沢リーダー自らの運転で芦安村の温泉へ入り汗を流し着替えして韮崎の食堂へ。後の運転は山本様お願いします。－とAチャージ（毎度反省してます）で高速道を走って無事京都に帰りました。リーダーをはじめお二人のお蔭で楽しい山行であったと報告しておきます。

以　上

（参　加　者）　山本俊夫，　上田嘉夫，　台川敦美，　他１名

（コースタイム）　７月31日　名神東インター　16：20　－　広河原駐車場　23：20

８月１日　駐車場　２：50　…　下部岩壁取付点　６：30　…

下部フランケ終了点　10：00　…　４尾根終了点　14：40

…　壁終了点　16：20　…　北岳頂上　17：15　…

北岳山荘　18：05

８月２日　北岳山荘　６：25　…　広河原駐車場　10：15　－　芦安温泉

11：30　－　自宅　19：00

【個人山行】

和　知　富　士（点名大迫 三等三角点675.1m）

大槻　雅弘

Ｒ27号から分かれて，和知町営大迫のバス停を北に３００ｍ程進むと，山裾にへばり付くように小さな部落がある。そこが大迫村である。この村の名前が付けられた点名大迫は，地元では和知富士と呼ばれている。言わずと知れた富士山に似た山姿から取った山名であろう。

ちょうど村々を廻る食料雑貨を売る車に集まっていた老婆達に山道を尋ねる。こちらの予定したコースを地図上で示すと，「道がないので登れない。この村の北に林道が相当上まで登っているのでそれを利用して登れば良い。」とのご忠告を受ける。

親切に教えてもらったのに，それに従わず結局当初予定していたコースを採ることにした。

村の中程にある公民館前に車を駐車させ，民家の横を通り山裾をつめた。すぐにお墓に突き当たり，その左についていた細い径を５分ほど登ると，南西から尾根に合流してよく踏まれた径へと出た。どうも最初からこの径を選んだ方が，スムーズにこのＡ地点まで来られたように思う。この径は，村の共同ケーブルアンテナ線のルートでもある。そこからはＰ３５０ｍまではすぐで，大迫の村が眼下に，京入道が北西に，目的の和知富士が進む方向の北によく見える処であった。

そこから半年ほど前登った懐かしの京入道が目の前に見えた。スタートする時に山名について麓の老婆から，「上に登れば京都が見えるから京入道と言うので〝恐〟じゃない。」と教わった。山は見る場所により呼び名が違うかもしれないが，ＪＲ和知駅前の看板には〝京入道〟も〝恐入道〟も書いてあった。しかし，いずれにしても村の老婆から聞いた言葉の方が信憑性がある。

径はやがてNo.46の関電送電線鉄塔と交叉し，河合村から登ってくる尾根径と合流し，頂上へと続いている。この鉄塔から見るピークがルートの中で一番「富士山」に似た山姿を見せてくれる場所である。一休みして写真を撮るにも良い場所であった。

そこからは雑木の中を進み，二つの小さなコブを越えると急に明るくなり，伐採地に出た。右下には林道も見え，ここでルートは最低鞍部に下りたった。そしてここからは上り一方の道となり，ルートの右側から左側へと伐採地は変わった。再び雑木の中を進むと，ちょうど高度５００ｍ程ぐらいから笹が出てくるようになった。北へ進んでいた道が，北東に方向を変えてからゆるい起伏を

2，3回繰り返すと，そこに三角点があった。

山名に似合わず少し期待外れの頂きで，狭く，その上展望も北方のみで，他は木々で視界は隠されていた。おまけに三角点が頭から1／3程かけていて痛々しいものであった。

下りは塩谷村へ向かって下りることにし，東へ尾根径を採り，２００m程で南の分岐から村へ下る尾根へ入った。秋には松茸が出るのであろう，白いナイロンテープが張ってあり，踏み跡が村の神社「山神神社」まで続いていた。塩谷へ下り立ってからは，駐車地点の大迫まで河合の村を経て，一時間余り車道を歩いて公民館前の車に戻った。

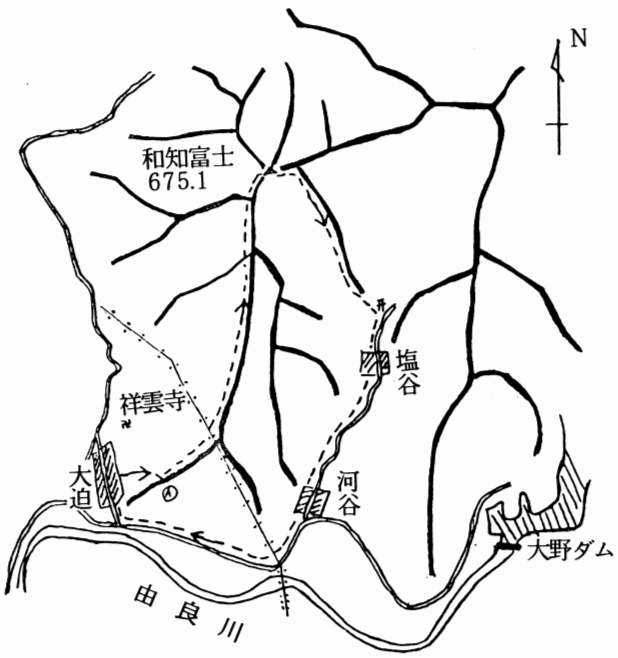
そろそろ二人共歳を取って来たので，近くに「ぼけ封じの天足さん」祥雲寺と言う寺があったので，お詣りしてぼけないように「ぼけ予防五箇条」なるものを頭にたたきこんで大迫を後にした。

勿論，我が家にたどり着いた時には，すっかり五箇条は忘れていたが……。

8月3日　晴れ

（参　加　者）　大槻雅弘，　和田良一

（コースタイム）　桂　8：00　－　9：25　大迫　9：50　…　9：58　尾根　10：27　鉄塔　…　10：40　Ｐ３６８m　…　12：00　△和知富士　…　13：00　塩谷　…　14：40　大迫　15：30　－　17：30　桂



【個人山行】

日本三百名山，倶留尊山で150座達成！

服部　正義

8月14，15日，家内を伊根の実家に里帰りとお墓参りをかねて，日本海側の一等三角点の山旅に，15日ＡＭ４：00，家内の実家本庄上から出発する。

まずは太鼓山一等，細川ガラシャ夫人の隠れ里，金剛童子山（６１３ｍ）三等，竹野町矢畑部落から依遅ケ尾山（５４０ｍ）二等，浜坂町，温泉町にまたがる三成山（田倉谷山５３６ｍ），この山は登山道が無く，てこずりましたが運良く浜坂森林組合の車に出会い話しをすると登ったことは無いが車の後を付いて来いということなので林道を登って行き，この山が三成山やァー気付けやァーと，…田舎の人はやさしいなァー，自分も仕事中はお客さんに親切しなあかんなぁと山仕事のおじさんに，又教えられる。

梨園から三分位の所で車を止め登山にかかる。いつもの通り「カン」だけで登ってゆき60分で自分としては２回目の天測点のある一等三角点を見つける。全身汗でびっしょり，草花の中に傷の無い三角点とコンクリート製の天測点の上に登り一人で三唱万歳をしビールをいただく。今後一等三角点山歩きを続けたら天測点に何個会えるだろうか。又，目標が出来ました。次の山，扇ノ山（３００名山）に向う。Ｒ９号線に出て浦生トンネルの手前を左折して扇ノ山，上山高原に向って車を走らす。今回は上山高原から登山，往復7㎞位いならヘッドランプも必要無いが念の為に持って出発，47分でコンクリートの小屋のある山頂に着く。大山火山帯の死火山で上山高原，河合谷高原が出来たんだなぁと思いつつ，大変傷の付いた二等三角点で記念写真。トチ，サワクルミ，ブナ林をながめながら一目散に上山高原登山口駐車場に下山。同じ林道を下りＲ９号線に出て岡田部長が言われていた村岡温泉（営業時間ＡＭ９：00～ＰＭ９：00　料金大人２５０円）にゆっくり汗を流し，亀岡の自宅に帰り山行記録を整理。登った山に○印を付けていると日本山岳会選定三百山を１４６座登ったと知り，次の山行には４座登山して１５０座にアタックしようと計画を練る。計画が立ったら即行動に移ろう。

９月１日（日），１５０座を祝ってくれたかの様に快晴。亀岡ＡＭ５：00出発，車庫に寄り旅行願を提出して一路，吉野町に向ってハンドルを握る。

最初の山は竜門ガ岳（９０４ｍ），三津部落の林道から25分で山頂着。草の中にきれいな一等三角点あり，往路下山。

次の山は高見山（1,２４９ｍ），旧街道の高見峠（８９０ｍ）から登山，天気も良いので多数の登山客，20分で立派な祠のある山頂着。多くの人々でゆっくり出来ない祠の裏にある二等三角点で写真をとり峠まで下山。

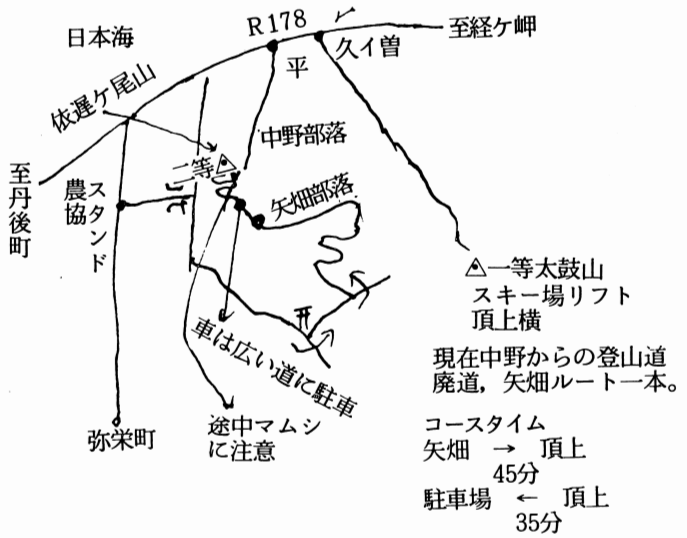
Ｒ１６６号を少し引返して県道を右折してＲ３６９号を走り神末上村から三峰山に向う。登山口までアスファルトでＡコース，Ｂコースがあり，Ｂコースをとり50分で山頂着。一等三角点で記念写真を撮り往路下山。

本日最後の山は倶留尊山，Ｒ３６９号から左折してＲ３６８号を三重県に入って５分ほど車を走

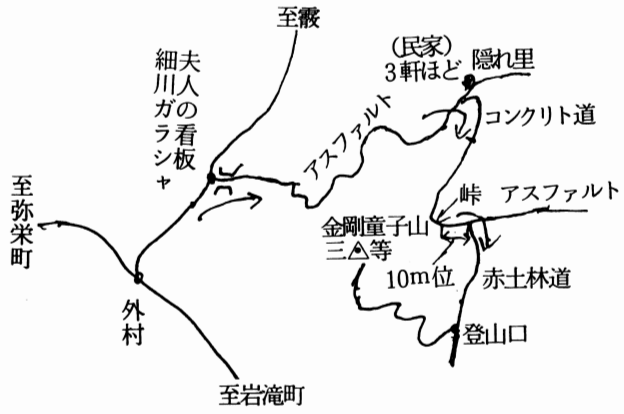
らせ左側に注意していると倶留尊山の標識あり，左折して次はくるそ山荘のカンバンに注意してアスファルトの林道約5㎞位登っていくと，山荘近くで林道終点。鈴とヘッドランプを念の為に持って東海道自然歩道から亀山峠，二本ボソ山から本峰・倶留尊山（ 1,０３８ｍ）三等三角点に６：05分到着。茜色に輝いた夕日に手を合わせてカンパイ。茜色になった「はだか」で記念写真。一生心に残る倶留尊山１５０座記念登山で，残り１５０座はこれから何年で完登出来るかわかりませんが３００名山完登という目標を持ってこれからも一座一座こつこつと歩くしか道はないと考えながら，亀山峠で夕陽が沈むのを見とどけて登山口くるそ山荘近くの駐車場に６：45分着。

桜井市三輪県道１０７号線奈良，車庫で汗を流し，11：30分亀岡の自宅に帰る。

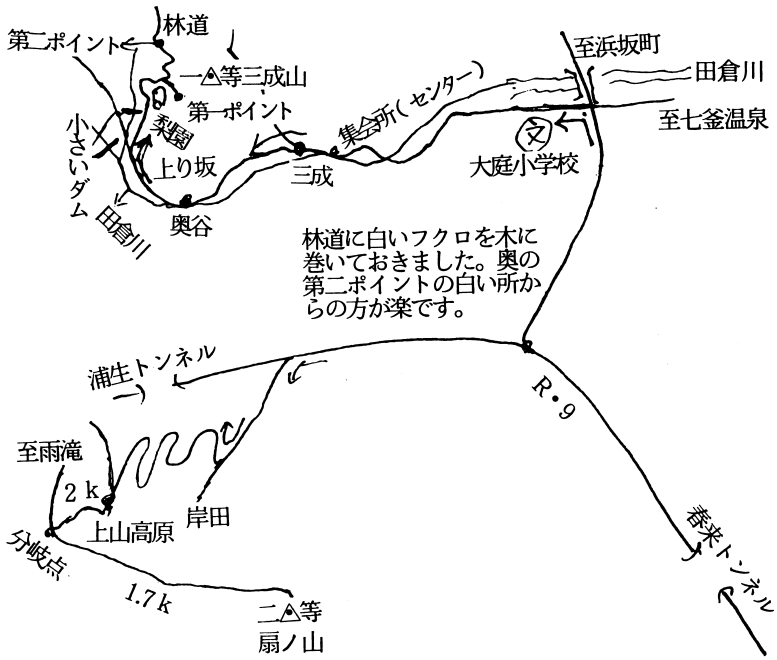
① 依遅ケ尾山（ 540m ）



② 金剛童子山（ 613m ）



③　三成山（田倉谷山）－△等（536m）



朝日新聞より転載

91：8：11

三角点が語る登山の夜明け

前　穂　高　岳

午前7時，穂高岳山荘を出発。霧の中でも雨のつぶてが当たっていたのに，奥穂高岳からアップダウンを繰り返していると，カーテンをさっとめくったように三角形の岩峰が突然姿を見せた。今日はついている。

その三角形のてっぺん，北アルプス前穂高岳（3,090m）の山頂で居合わせた10数人の登山者と，幸運の続きをしばしば満喫した。

穂高の岩のたくましさ，涸沢に落ちる雪渓のきびしさ，蝶ケ岳の山並みのやさしさ，八ケ岳のかすみ，諏訪湖のきらめき……。

霧とかすみさえなければ，何10キロ先まで望めることが，最高にすばらしい。この山頂に「一等三角点」が置かれたことが，納得できる。

3,000m級の山はやはりきつくてつらくて，〝山旅〟としゃれる余裕はない。それでも来たのは，穂高登山の歴史のあかしである三角点の標石を確かめてみたかったからだ。

岩が平たく積み重なった山頂をざっと見ても，それらしい物は見当たらない。資料図を見ると，「ケルンから5.9m」とある。あった，あった。朽ちかけた三本の短いくいに囲まれて，15センチ四方の標石が岩石に埋もれて顔を見せていた。

標石に刻まれた文字を確かめようと岩石を取り除いたら，登山者が数人集まってきた。早々に下りたくなるほどの強い風が吹く中で，石掘り姿は奇異に映ったようだ。

「何か落としたんですか」

「いや，三角点なんですよ」

「あぁ！確か一等ですよね」

「そう，明治26年……」

知っている人がいて，うれしくなる。身をかがめると，標石に彫られた「角点」の古い字体が読める。そばに三角点の所在を示すポールが転がっていた。

参謀本部の陸地測量師，館潔彦が前穂に登ったのは明治26年夏であった。地図測量の基本になる三角点の位置を選ぶため，地元の猟師上条嘉門次の案内で登り，山頂の岩の割れ目に標柱を打ち込んだ。

国土地理院にある三角点の戸籍簿である「点の記」によると，穂高岳（今の前穂）は「明治26年8月1日，館潔彦選点」とある。記録に残る限り，館が前穂の最初の登山者で，日本の山々を世界に紹介した英人宣教師Wウェストンがやはり嘉門次と前穂に登ったのはその数週間後，8月25日だった。

明治時代の日本アルピニズムの幕開期に，陸地測量師も人知れず山に足跡を残していた。その第一人者であった館は，徳本峠を越えて又白谷に入り，今は登る人もないルートで道なき穂高によじ

登った。

もう雨だ、山頂から，館が登ってきた方向を見ると，岩と雪の下に濃い緑色の奥又白池が見え隠れしている。

それにしても，陸地測量師が山で辛酸をなめて１００年近く，穂高岳も登山の装いを変えてきている。

穂高岳山荘で昨夜，モーツァルトの「ピアノ小品集」やバッハの「マタイ受難曲」を聴いた。

登山者がストーブを囲み，いすの背もたれに体をあずけて，山の夜のＣＤコンサートを楽しんでいた。

前穂から岳沢への下りはきつかった。少しは耳に残っていた名曲も，いつの間にか蒸発してしまった。

白　井　正　夫

館　　潔　彦

参謀本部陸地測量師の館潔彦が登山史に顔をだすのは，ウェストンの『日検』である。

前穂高岳を目指す著者が明治26年８月24日，徳本峠前の鉱泉で，２週間前に前穂に登って転落，負傷して療養している測量技師に会った話しを書いている。

翌日ウェストンは登頂し，一等三角点の標柱を確かめるが，本にはなぜか「陸軍省の測量技師」とだけで館の名は書かれていない。職業のための登山とアルピニズムを分けて考える当時の風潮が興味深い。

嘉永２年（１８４９）桑名藩で生まれた館は明治の新時代に三角測量に携わり，全国の山に登った。

国土地理院にある彼が選んだ三角点の期日をみると，その行動は超人的でさえある。

明治26年の主な山だけでも，御岳山（７月），白馬岳（７月），穂高岳（８月），白山（９月）とある。館は足跡を水彩の絵で残した。

『地図ニュース』（89年７月号＝日本地図センター発行）に佐藤さんが，館の残した業績とともに彼が描いた一枚の絵を紹介している。

官員服に脚半を巻いた館が洋傘をつきながら嘉門次と岩山を下り，「８月１日－雨中明神岳を下る」と書き添えがある。前穂登山の絵である。44歳の自画像でもある。

昭和２年没した。

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1839	国境シリーズ 横谷	6月29日		岡田 茂久	奥村，坂井 津田，他1名	（別稿詳報）
1841	夏山合宿 白峰三山	8月1日～ 5日		山岡 昭弘	西尾，大塚， 松田，馬淵	（別稿詳報）
1843	ブナノ木峠	7月13日～ 14日		鷲見 敏一	鷲見寿末子	（別稿詳報）
1845	比良貫井谷遡行	8月25日		大槻 雅弘	田村，三橋 他6名	（別稿詳報）
1846	飯盛山	9月1日		岡田 茂久	奥村，渡辺， 和田，辻， 方山，他1名	（別稿詳報）

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
厚生会登山 燕岳…大天井岳 常念岳…蝶ケ岳	8月8日 ～11日		津田 実 他	（別稿詳報）
北岳 バットレス	7月31日 8月2日		台川敦美，山本俊夫 上田嘉夫，他1名	（別稿詳報）
和知富士	8月3日		大槻雅弘，和田良一	（別稿詳報）
日本三百名山 倶留尊山で 150座達成	8月14日 9月1日		服部正義	太鼓山，金剛童子山，依遅ケ尾山 三成山，扇ノ山 竜門ガ山，高見山，三峰山， 倶留尊山（別稿詳報）
金時山 Ⅲ△1,213	8月30日		大槻雅弘	富士山を見るために登った箱根の山。金時娘に会い，腹巻きを買うはめに……。

雑　　報

▲▲▲　９月の集会

９月10日（火）　場所　厚生会館４Ｆ大教室

出席者　（本局）　古市，山岡，井上，井戸，岡田，方山，和田，大槻（梅津）吉田

（ＯＢ）　津田，横井，今井，坂井

例会報告，個人山行，インドア　吉田武氏による「観天望気」，その他

▲▲▲　他山岳会会報（受贈分）

９月号　　青嶺，趣味の登山，近畿山行，京都山岳，好山好会，一等三角点，北山，比良山岳，愛宕ニュース

予　　告

▲▲▲　**平成３年度府下山域清掃大会実施要項**

主催：京都府山岳連盟　　主管：自然保護委員会

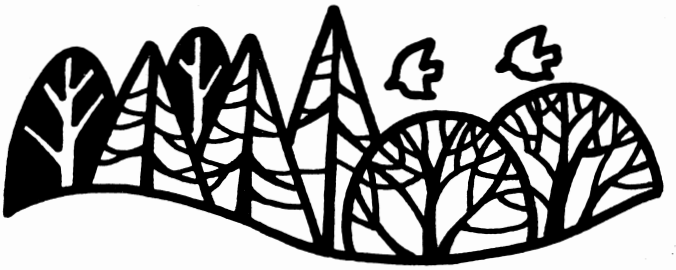
期　　日　　平成３年11月17日（日曜日）　小雨決行。

（決行可否の問い合わせは京岳連事務所へ。）

清掃山域　　天王山．金毘羅山．清滝Ａ（高雄－清滝）．清滝Ｂ（清滝－保津峡駅）

（京交は，天王山の予定です。）

集合時刻　　９時開会（各山域共通）

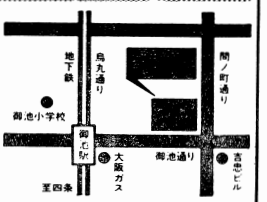


HIROSHI HASEGAWA'S SHOP
FOR MOUNTAINEERS & BACK COUNTRY SKIERS
THE LOG CABIN CO.
KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄
左・川端丸太町下る下堤町８８
TEL（075）771－3442

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽
木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321－0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!
●登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カヌーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!


ビッグ ホリイケ
営業時間 AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入（千代田生命京都御池ビル2F）
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアーウェアー・US放出品
ボーイスカウト用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(256)-0546
●営業時間 AM10:00～PM8:00 毎週火曜定休
(株)スポーツ コニシ

自費出版のススメ

自分の文章が活字になる歓びを味わってみませんか　詩・随筆・自分史・社史の編集から印刷・製本までプロの小社がお手伝いさせて戴きます

㈱北斗プリント社

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)
TEL (075) 791－6125(代)
FAX (075) 791－7290

小林地図専門店

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る)　☎ (075) 351－6598㈹

地下鉄：五条駅　5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成３年10月１日

京都市中京区壬生坊城町４８

京都市交通局内

京交山岳部